

News Release

～ 高齢ドライバーの交通事故未然防止を支援する 自動車安全運転診断車「きずな号」～ 『運転能力診断』と『安全運転診断』の2つの機能を拡充

J A共済連（全国共済農業協同組合連合会・代表理事理事長：柳井 二三夫）は、高齢ドライバーが安全に運転を継続できるよう、ドライビングシミュレーター「自動車安全運転診断車『きずな号』」の『運転能力診断』と『安全運転診断』の機能を拡充しました。

■最新のドライビングシミュレーター機能搭載による『運転能力診断』と『安全運転診断』の機能拡充

J A共済では、この度、高齢ドライバーの交通事故発生状況を踏まえ、「自動車安全運転診断車『きずな号』」に最新のドライビングシミュレーター機能を搭載し、『運転能力診断』と『安全運転診断』の機能拡充を図りました。

『運転能力診断』では、動体視力や判断力、記憶力など自動車の運転に必要な認知・判断能力を測定。従来はタッチペンによる診断を行っていましたが、今回、モニターに映し出されたリアリティのある交通場面に対して、ハンドルやアクセル、ブレーキ操作などの動作を行い、運転能力を測ることができるよう改良を行いました。高速道路の走行シーンでは、走行中に道路に設置された指示を読み取ることができるかを診断し、「アクセルとブレーキの踏み間違い」の危険性を測定します。診断結果は5段階で測定し、低下している能力を補うためのアドバイスや安全運転サポート車（サポカー）導入の検討など、運転継続に必要な情報を提供します。

『安全運転診断』には、危険運転が発生しやすい地点の中から、「見通しの良い道路（脇見・漫然運転）」、「駐車場（安全不確認・脇見）」、「信号機のある見通しの悪い交差点（信号の変わり目での無理な進入）」で発生する危険な場面を新たに搭載しました。診断結果は、事故・危険運転・違反回数などの走行結果を総合的に5段階で測定し、危険場面や危険予測のポイントについて情報を提供します。



『運転能力診断』 高速道路走行シーン

J A共済では、新たに機能を拡充したドライビングシミュレーター「自動車安全運転診断車『きずな号』」の全国巡回を通じて、引き続き、高齢ドライバーの交通事故未然防止活動に取り組んでまいります。

■自動車安全運転診断車『きずな号』の概要

交通事故の発生件数が減少傾向にある一方で、交通事故全体に占める高齢ドライバーの割合は依然として高い傾向にあります。公共交通機関が限られる農山村地域では、自動車は欠かすことのできない移動手段となっています。

J A 共済では、高齢ドライバーによる事故の主要な原因である「自分は大丈夫」という“思い込み”や身体能力の低下による“うっかりミス”に対する注意を呼びかけるため、平成20年よりドライビングシミュレーターを搭載した「自動車安全運転診断車『きずな号』」を全国に派遣し、巡回型の交通安全診断を実施しています。「自動車安全運転診断車『きずな号』」は、J A まつりや警察・行政等が主催する交通安全啓発イベントなど様々な場面で活用され、累計開催数は2,645回（令和3年度末時点）にのぼります。



自動車安全運転診断車「きずな号」外観



トラック内に設置されたドライビングシミュレーター

■シルバー世代に向けた『交通安全対策NEWS』（動画・資料）の制作

J A 共済では、ドライビングシミュレーター「自動車安全運転診断車『きずな号』」の機能拡充と併せて、近年、危険運転として社会問題化する「高速道路の逆走」と「ペダル踏み間違い」に対する注意を呼びかけるWeb動画『交通安全対策NEWS』を制作し、J A 共済 地域貢献活動ホームページ「ちいきのきずな」内に公開しました。

また、Web動画の理解促進を目的に、「高速道路の逆走」と「ペダル踏み間違い」防止を啓発するパンフレットを作成しました。同パンフレットは、「きずな号」の体験者などに配布を行う予定です。

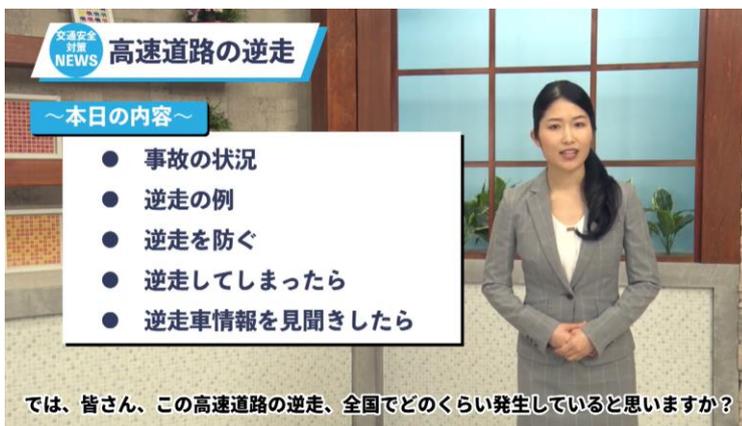
J A 共済 地域貢献活動ホームページ「ちいきのきずな」交通安全対策NEWS

URL : https://social.ja-kyosai.or.jp/contribution/silver_news/



QRコード

● 交通安全対策NEWS 「高速道路における『逆走』の危険性」



動画の一場面



啓発パンフレット（表面）